

2026.10

日本教育史

資料・研究書

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:042-306-3383 / FAX:042-306-3384 東京都東村山市秋津町 5-24-13-101 (〒189-0001)

日本教育史基本文献・史料叢書 全 63 巻2-5

明治・昭和
教育史研究資料
復刻版

教育学術界 全 63 巻 6

小学校 全 44 巻 7

時事通信 内外教育版 全 25 巻8-9

文部省 教育統計・調査資料集成 全 47 巻 10

*

大正・昭和
国語教育史資料
復刻版

国語教育 全 33 巻 11

同志同行 全 35 巻・別巻 1 11

教育・国語教育 全 36 巻 12

南洋群島 国語読本 全 8 巻・補遺 1 13

全巻揃残部1組

雑誌『養護 / 学童養護』全 9 巻 14

*

[研究書] 女性・子ども・福祉・社会事業・社会教育14-15

〈商品の状態について〉刊行年が古いものは、本文の読書に支障はないものの、経年による劣化（小口のしみ、表紙クロスの焼け等）が見られるものがあります。最善の状態での出荷を心がけますが、新品と言いかねる場合もありますので、ご注文の際にはご承知おきのほどお願いいたします。（大空社出版）

日本教育史基本文献・史料叢書

全63巻 監修 寺崎昌男・久木幸男

刊行のことば (1991年4月)

「天下の孤本」と呼ぶべき文献を含めて、比較的入手困難な研究文献や史料が、日本教育史分野でも近年次々に複製される傾向が見られる。研究遂行のためには先行研究や史料の精査が不可欠である以上、それらへの接近を容易にする右の傾向は、まことに喜ばしいことだといわねばならない。

しかし少なくとも日本教育史に関する限り、当然複製されるべきなのに忘れられたままになっている基本的な文献や史料が、まだ数多く埋もれている。一方、研究史的位置づけのあいまいさを残しながらの複製、あるいは複製の意味が問われかねないような残念なケースもないとはいえない。

複製の盛んな最近の傾向の中で、今とくに求められているのは、真に複製に価する文献や史料の精選と、成るべく入手しやすい形での提供ではないだろうか。私たちはこのような観点から、『日本教育史基本文献・史料叢書』を逐次刊行していくことを企画した。日本教育史研究の進展に必要な文献・史料が、真にそれを必要とする人たちの手もとに、比較的容易に届くことを願っていることである。そのため分売方式の採用は勿論、散在する文献・史料の再編集も一部採り入れた。読者ないし潜在的読者からの複製要望にも真摯に応えたいと考えている。

本叢書が活用されて、日本教育史研究のさらなる進展の一助となることを、心から願ってやまない次第である。

寺崎昌男
久木幸男

■特色■

- ①日本教育史の研究に必要不可欠な文献を精選。
- ②複製を主とし、新編集で初めてまとめたものもある。
- ③各巻に専門研究者の解説収録
- (体裁) A5判・上製・クロス装

刊行経過

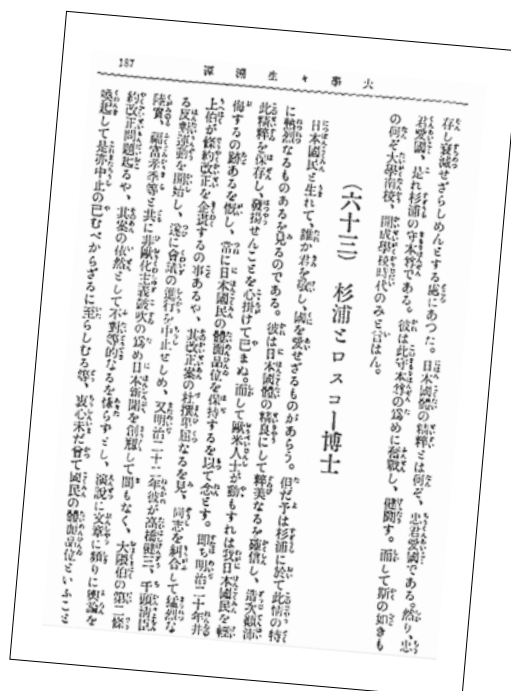
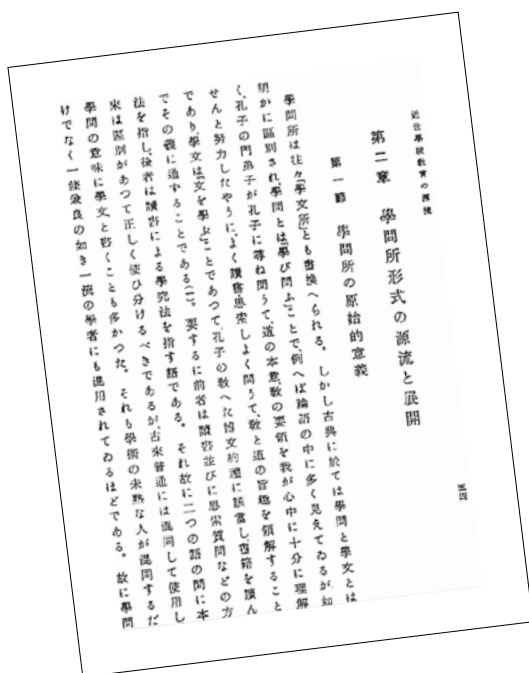
期	巻	刊行	ISBN
第1期	8巻 (1-18巻)	1991年4月	4-283-00340-9
第2期	10巻 (9-18巻)	1992年2月	4-283-00341-7
第3期	6巻 (19-24巻)	1993年3月	4-283-00342-5
第4期	8巻 (25-32巻)	1994年6月	4-283-00343-3
第5期	6巻 (33-38巻)	1996年3月	4-283-00344-1
第6期	9巻 (39-47巻)	1997年10月	4-283-00345-X
第7期	6巻 (48-53巻)	1998年3月	4-283-00346-8
第8期	10巻 (54-63巻)	1998年11月	4-283-00347-6

(一部品切)
●ほとんどが残部数冊です。
〈2026年9月現在〉

巻	(内容)	ISBN	本体価格
第1期 8巻 (1-18巻) [1991年4月刊]		4-283-00340-9	97,087円
1	日本教育史 文部省(白石正邦):弘道館(明治43)〔解説:斉藤太郎〕300頁	4-87236-601-8	6,602円
2	全国附属小学校の新研究 金港堂編集部:金港堂(明治43)〔解説:藤枝静正〕1170頁	4-87236-602-6	24,272円
3	日本教育思想史 安達久:モナス(昭和5)〔解説:江森一郎〕630頁	4-87236-603-4	11,650円
4	国民道德ニ関スル講演 文部省編(穂積八束・吉田熊次):文部省(明治44)〔解説:森川輝紀〕210頁	4-87236-604-2	4,854円
5	修身科講義録 東京府内務部学務課(穂積八束・井上哲次郎・吉田熊次):東京府学務課(明治44)〔解説:森川輝紀〕460頁	4-87236-605-0	9,223円
6	全国学校沿革史 長坂金雄編:東都通信社(大正3)〔解説:神辺靖光〕1320頁	4-87236-606-9	26,214円
7	思想善導論 大日本学術協会(武田勘治)編:モナス(昭和3)〔解説:久木幸男〕400頁	4-87236-607-7	8,447円
8	大学今昔譚 三宅雪嶺:我観社(昭和21)〔解説:中野実〕340頁	4-87236-608-5	5,825円
第2期 10巻 (9-18巻) [1992年2月刊]		4-283-00341-7	87,378円
9	日本近世教育概覧 文部省総務局:文部省(明治20)〔解説:神辺靖光〕330頁		7,767円
10	教育史余材 横山健堂:開発社(明治41)〔解説:石附実〕340頁	4-87236-610-7	7,767円
11	大学々生溯源 全(上・下) ※下巻新組編集 品切 橋南漁郎:(上)日報社(明治43)〔解説:中野実〕410頁	4-87236-611-5	9,709円
12	石上宅嗣卿 石上宅嗣卿顕彰会:石上宅嗣卿顕彰会(昭和5)〔解説:鈴木理恵〕180頁	4-87236-612-3	3,883円
13	大学の運命と使命 品切 帝国大学新聞社編集部:帝国大学新聞社(昭和5)〔解説:寺崎昌男〕370頁	4-87236-613-1	7,767円
14	近世学校教育の源流 品切 高橋俊乗:永沢金港堂(昭和18)〔解説:竹内明〕660頁	4-87236-614-X	14,563円
15	日本に於ける耶蘇会の学校制度 シリング著・岡本良知訳:東洋堂(昭和18)〔解説:梶村光郎〕300頁	4-87236-615-8	6,796円
16	女子教育特輯 野間教育研究所紀要第1輯 土屋忠雄ほか:野間教育研究所・講談社(昭和22)〔解説:水野真知子〕300頁	4-87236-616-6	6,796円
17	金沢文庫の研究 品切 関靖:講談社(昭和26)〔解説:大戸安弘〕810頁	4-87236-617-4	17,476円
18	明治末期社会教育観の研究 野間教育研究所紀要第20輯 倉内史郎:野間教育研究所・講談社(昭和36)〔解説:蛭田道春〕210頁	4-87236-618-2	4,854円
第3期 6巻 (19-24巻) [1993年3月刊]		4-283-00342-5	64,078円
19	籠谷次郎日本教育史論集:明治期地方教育史の諸問題 ※新編集 籠谷次郎 380頁	4-87236-619-0	9,709円
20	巽軒博士倫理的宗教論批評集 第1輯 秋山悟庵:金港堂(明治35)〔解説:関川悦雄〕410頁	4-87236-620-4	10,680円
21	満日本教育史(上・下) 加藤仁平:建文館(昭和12・14)〔解説:久木幸男〕490頁	4-87236-621-2	13,592円
22	寄宿舎と青年の教育 滝浦文弥:単純生活社(大正15)〔解説:斉藤利彦〕450頁	4-87236-622-0	12,621円
23	学校改良論 寺田勇吉:南江堂(明治31)〔解説:寺崎昌男〕250頁	4-87236-623-9	7,767円
24	学校観の史的研究 第2篇 野間教育研究所紀要第27集 寺崎昌男・佐藤秀夫・宮沢康人・山内太郎:野間教育研究所・講談社(昭和47)〔解説:寺崎昌男〕320頁	4-87236-624-7	9,709円

巻	(内容)	ISBN	本体価格
第4期 8巻 (25-32巻) [1994年6月刊]		4-283-00343-3	111,652 円
25	明治教育思想史 藤原喜代蔵：富山房（明治42）〔解説：斉藤太郎〕780頁	4-87236-625-5	18,447 円
26	児童読物の研究 京都市小学校教員会研究部：京都市小学校教員会研究部（昭和2）〔解説：小熊伸一〕360頁	4-87236-626-3	8,738 円
27	高橋俊乗 日本教育史論纂 ※新編集 高橋俊乗 〔解説：辻本雅史〕770頁	4-87236-627-1	18,447 円
28	教育史料雑考 三浦藤作編著：帝国教育会（昭和7）〔解説：石附実〕660頁	4-87236-628-X	16,505 円
29	財団法人大日本婦人教育会五十周年記録 大日本婦人教育会：大日本婦人教育会（昭和11）〔解説：小山静子〕570頁	4-87236-629-8	14,563 円
30	明治少年文化史話 木村小舟：童話春秋社（昭和24）〔解説：田嶋一・狩野浩二〕410頁	4-87236-630-1	10,680 円
31	教育史（日本現代史大系） 宮原誠一：東洋経済新報社（昭和38）〔解説：尾崎ムゲン〕420頁	4-87236-631-X	10,680 円
32	近世豪農の学問と思想 柴田一：新生社（昭和41）〔解説：川村肇〕550頁	4-87236-632-8	13,592 円
第5期 6巻 (33-38巻) [1996年3月刊]		4-283-00344-1	72,817 円
33	教科書国定化問題論纂 ※新編集 ①教育界の厄はらい 菊池勉：松邑三松堂、明治36②教科書国定ニ就テ 文部省官房編・発行、明治36③欧羅巴各国ニ於ケル教科書制度ノ調査 附我国ノ教科書制度ヲ論ズ 山田慎三郎著・発行、明治36④国定教科書に関する沢柳普通学務局長の演説 文部省普通学務局編・発行、明治38〔解説：梶山雅史〕380頁	4-87236-633-6	10,680 円
34	赤門生活 南北社編・発行（大正2）〔解説：中野実〕340頁	4-87236-634-4	9,709 円
35	増補王朝教育史資料 ※新編集 春山作樹編：長崎書店（昭和5）〔解説・原本訓読：久木幸男〕250頁	4-87236-635-2	9,709 円
36	小学校教授法沿革史 佐々木清之丞：厚生閣書店（昭和5）〔解説：鈴木そよ子〕390頁	4-87236-636-0	10,680 円
37	幼児保育史 品切 古木弘造：巖松堂書店（昭和24）〔解説：宍戸健夫〕190頁	4-87236-637-9	7,767 円
38	日本児童文章史 西原慶一：東海出版社（昭和27）〔解説：太郎良信〕860頁	4-87236-638-7	24,272 円
第6期 9巻 (39-47巻) [1997年10月刊]		4-283-00345-X	75,600 円
39	京都府初等教育優良事蹟 第1篇 京都府第二部学務課（明治39）〔解説：三原芳一〕410頁	4-87236-639-5	11,700 円
40	都府初等教育優良事蹟 第2篇 京都府内務部学務課（明治41）〔解説：三原芳一〕260頁	4-87236-640-9	7,500 円
41	全国優良小学校実況 文部省：金港堂（明治42）〔解説：笠間賢二〕470頁	4-87236-641-7	12,000 円
42	自治及修身教育批判 東京市政調査会（大正13）〔解説：小川剛〕190頁	4-87236-642-5	4,500 円
43	近世教育史の諸問題 石川謙：文修堂書店（大正15）〔解説：石川松太郎〕460頁	4-87236-643-3	12,900 円
44	育英十年 京都府師範学校附属小学校第二教室（昭和3）〔解説：田中耕治〕210頁	4-87236-644-1	5,500 円
45	日本之儒教 日本儒教宣揚会：日本儒教宣揚会、昭和9〔解説：駒込武〕330頁	4-87236-645-X	8,500 円
46	小西信八先生存稿集 小西信八・小西信八先生存稿刊行会（昭和10）〔解説：平田勝政〕280頁	4-87236-646-8	7,500 円
47	中等教育の革新 谷本富・谷本先生遺稿出版委員会（昭和37）〔解説：斎藤利彦〕220頁	4-87236-647-6	5,500 円

巻	(内容)	ISBN	本体価格
第7期 6巻 (48-53巻) [1998年3月刊]		4-283-00346-8	65,000円
48	学生風紀問題 井田竹治 (明治35) [解説: 富岡勝] 190頁	4-87236-648-4	5,000円
49	支那勅語衍義集成 峰間信吉: 東京学友社 (昭和12) [解説: 岩本努] 480頁	4-87236-649-2	14,000円
50	教育史研究 創刊号～第7号 教育史研究会 (昭和30～34) [解説: 森川輝紀] 480頁	4-87236-650-6	14,000円
51	我国における千字文の教育史的研究 本編 尾形裕康: 校倉書房 (昭和41) [解説: 石島庸男] 470頁	4-87236-651-4	14,000円
52	我国における千字文の教育史的研究 図録編 尾形裕康: 校倉書房 (昭和41) [解説: 石島庸男] 290頁	4-87236-652-2	8,000円
53	私の聞書き帖 大西伍一: 慶友社 (昭和43) [解説: 小林千枝子] 360頁	4-87236-653-0	10,000円
第8期 10巻 (54-63巻) [1998年11月刊]		4-283-00347-6	93,000円
54	優良小学校之実際 上 教育実験界編集部: 育成会 (明治42) [解説: 笠間賢二] 350頁	4-87236-654-9	10,000円
55	優良小学校之実際 下 教育実験界編集部: 育成会 (明治42) [解説: 笠間賢二] 430頁	4-87236-655-7	12,000円
56	明治大正教育教授物語 教育週報社: モナス (昭和4) [解説: 吉村敏之] 390頁	4-87236-656-5	11,000円
57	聖堂略志 中山久四郎: 斯分会 (昭和10) [解説: 橋本昭彦] 200頁	4-87236-657-3	6,000円
58	明治以降裁縫教育史大要裁縫関係法令抄 品切 渡辺学園 (昭和15) [解説: 桑田直子] 260頁	4-87236-658-1	7,000円
59	日本日曜学校史 山本忠興: 日曜世界社 (昭和16) [解説: 梶村光郎] 320頁	4-87236-659-X	9,000円
60	漢学塾を中心とする江戸時代の教育 佐々木清之丞 (昭和18) [解説: 川村肇] 280頁	4-87236-660-3	8,000円
61	新制大学への道 学徒図書組合文化部 (昭和24) [解説: 寺崎昌男] 200頁	4-87236-661-1	6,000円
62	専門学校資料 上・下 文部省大学学術局技術教育課 (昭和31) [解説: 羽田貴史] 570頁	4-87236-662-X	10,000円
63	教師の社会的地位 細谷恒夫: 有斐閣 (昭和31) [解説: 若井弥一] 460頁	4-87236-663-8	14,000円



教育学術界 全 82 巻・別巻 1

(明治編) 寺崎昌男 監修／小熊伸一 解説 [大空社 1989-98 復刻] A5/B5 判・上製

■明治・大正〈近代日本〉の教育理論・学術研究・教育問題... 現代の研究が立ち返るべき宝庫 1899 年創刊から約半世紀、長命を維持した代表的教育雑誌。海外理論を積極的に摂取、高い学術性を保ち、初等・中等・専門教育に目を配り、日本独自の教育の確立を模索する論文を掲載。錚々たる寄稿者。

全巻揃残部 1 組

2026 年 9 月

【明治編】全 48 巻〈同文館、明治 32.11-大正 1.9〉別巻(解説・総目次・著者名索引)〈全 5 回配本〉
 [1 回] 10 巻 (1-10 巻: 1 巻 1 号-6 巻 6 号〈明治 32.11-36.3〉) 4-87236-089-3 本体 165,000 円
 [2 回] 10 巻 (11-20 巻: 7 巻 1 号-11 巻 6 号〈明治 36.4-38.9〉) 4-87236-090-7 本体 165,000 円
 [3 回] 10 巻 (21-30 巻: 12 巻 1 号-16 巻 6 号〈明治 38.10-41.3〉) 4-87236-091-5 本体 150,000 円
 [4 回] 10 巻 (31-40 巻: 17 巻 1 号-21 巻 6 号〈明治 41.4-43.9〉) 4-87236-092-3 本体 150,000 円
 [5 回] 8 巻 (41-48 巻: 22 巻 1 号-25 巻 6 号〈明治 43.10-大正 1.9〉)・別巻 4-87236-093-1 本体 140,000 円
 (明治編) 全 48 巻・別巻 1 揃本体 770,000 円

【大正編】全 34 巻〈同文館→大日本学術協会→東京モナス、大正 1.10-10.3〉〈全 5 回配本〉
 [1 回] 6 巻 (1-6 巻: 26 巻 1 号-28 巻 6 号〈大正 1.10-3.3〉) 4-7568-0204-4 本体 95,146 円
 [2 回] 7 巻 (7-13 巻: 29 巻 1 号-32 巻 3 号〈大正 3.4-4.12〉) 4-7568-0205-2 本体 106,796 円
 [3 回] 7 巻 (14-20 巻: 32 巻 4 号-35 巻 6 号〈大正 5.1-6.9〉) 4-7568-0206-0 本体 110,000 円
 [4 回] 7 巻 (21-27 巻: 36 巻 1 号-39 巻 3 号〈大正 6.10-8.6〉) 4-7568-0207-9 本体 110,000 円
 [5 回] 7 巻 (28-34 巻: 39 巻 4 号-42 巻 6 号〈大正 8.7-10.3〉) 4-7568-0208-7 本体 120,000 円
 (大正編) 全 34 巻揃本体 541,942 円

1899 年(明治 32)に創刊され以後約 50 年間刊行されたこの雑誌『教育学術界』は、すでに複刻版のある『教育時論』に匹敵する刊行寿命をもつ代表的教育雑誌であった。しかも後者にくらべて、学術性・理論性においてははるかに高いものをもっていた。一方、同じく代表的教育雑誌だった『教育報知』にくらべ政治的主張においてやや鮮明さを欠いていたが、そのことでかえって安定した重厚さを保っていた。早稻田・慶応・東京高師さらには帝国大学に及ぶ編集陣によって編纂が受け継がれ、誌名通りの「学術性」を失わなかった。さらに、初等教育だけでなく、中等教育・専門教育に及ぶトピックを取り上げ論文を掲載しつづけたのも、他の雑誌にない大きな特色だった。

寺崎昌男(監修にあたって抄)

編輯會 學 育 教	
界 術 學 育 教	
四 卷 號 第 第 第 月 年	
◎教育學界の發行を祝す	井上哲次郎
◎祝文	上野 實
◎教育界果して問題なき乎	上野 實
◎教育學界發行に就きて	上野 實
◎道德の二考察法	中島力雄
◎倫理修養運動に關する希望	丁西悲話會
◎教育學としての倫理學の性質	藤井健治郎
◎情育研究の必要	中島牛太郎
◎孟子の五段教授法	樋口勸治郎
◎審美教育に就きて	乙竹聖造
◎道德命令の心理的考察	乙竹聖造
◎算數教授の心理及原則	樋口勸治郎
◎學說の論争及學問の歸趨	樋口勸治郎



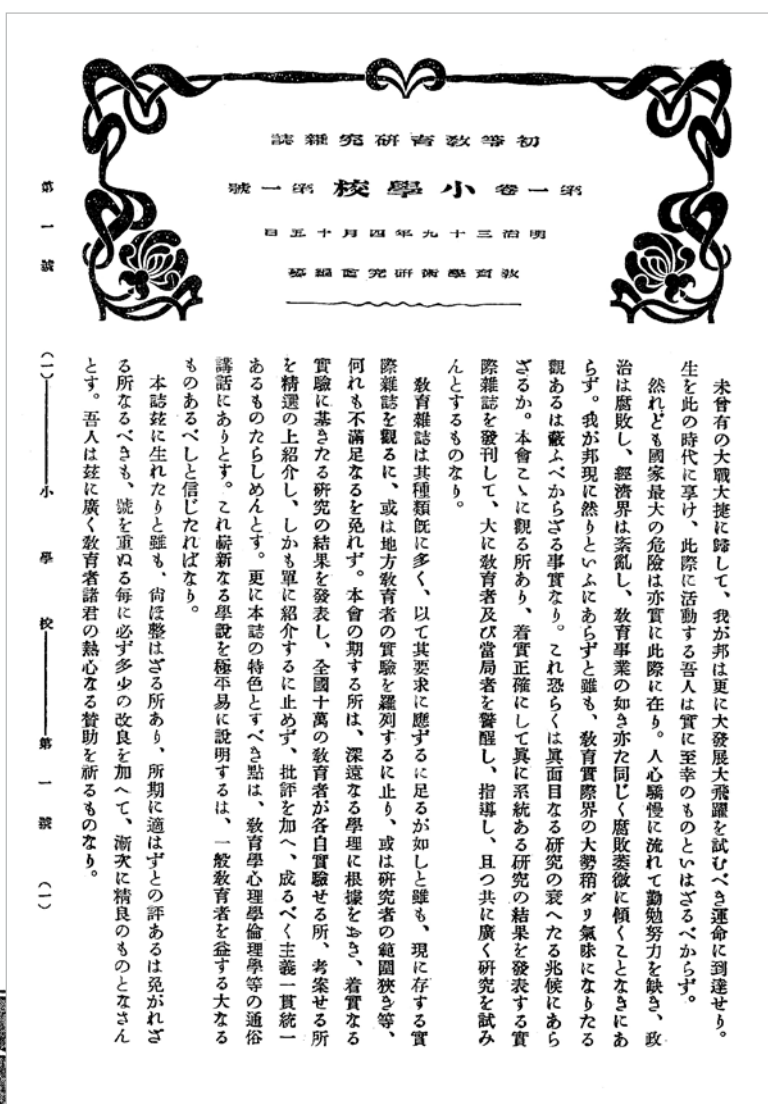
教育學術界 第二十七卷 第五號 目次	
◎教育調査會總裁及會員	上野 實
◎大學教授の淘汰に就いて	上野 實
◎ホプハウス氏倫理進化論	中島力雄
◎誤れる國家觀念と國民道德説	奥山新治郎
◎フレイバーの教育説を評論す	乙竹聖造
◎心理學上の行動説に就いて	上野 實
◎ベルグソンの教智と本能	島村 嘉
◎ルソーと活動主義教育	上野 實
◎大正新教育綱領	上野 實
◎幾何學軌跡教授法を讀みて	武内 登
◎地理の教授と國旗の利用	野口吉郎
◎中學生の宗教に對する態度	船越 文
◎夏休に於ける國語科の宿題	橋本孝一
◎又経史文	
◎獨逸史跡歴訪口誌の一節	新井 誠
◎山鹿素行先生	新井 誠
◎バルタザール	新井 誠
◎獨逸に於ける教育研究の現状	早稲田大學 中島牛太郎
◎米國教育大觀	早稲田大學 中島牛太郎
◎海外學事彙報	早稲田大學 中島牛太郎
◎教育調査會々員	早稲田大學 中島牛太郎
◎男兒自治俱樂部	早稲田大學 中島牛太郎
◎文檢植物科受験記	早稲田大學 中島牛太郎
◎雜 稿	早稲田大學 中島牛太郎

小学校 (明治編) 全44巻・別巻1

寺崎昌男 監修／小熊伸一 解説 [大空社 1992-95 復刻] B5判・上製

■明治39年から昭和8年まで、長期にわたり発行された教育雑誌の〈ベストセラー〉『小学校』(発行・同文館)。臨時増刊号を含む明治期の全137冊の復刻。全国の教育者たちによる教育理論・実践・研究の成果・記録や「投書」「論壇」は、当時の教育界の実態を照らすのみならず、数多くの教師を育成する役割を果たした。

- [1回] 10巻(1-10巻:1巻1号-5巻6号)
(明治39.4-41.6) 4-87236-229-2 本体131,068円
- [2回] 10巻(11-20巻:5巻7号-7巻12号)
(明治41.7-42.9) 4-87236-230-6 本体131,068円
- [3回] 8巻(21-28巻:8巻1号-9巻12号)
(明治42.10-43.9) 4-87236-231-4 本体106,796円
- [4回] 8巻(29-36巻:10巻1号-11巻12号)
(明治43.10-44.9) 4-87236-232-2 本体97,087円
- [5回] 8巻(37-44巻:12巻1号-13巻14号)
(明治44.10-大正1.9) / 別巻(解説・総目次・著者名索引)
4-87236-233-0 本体106,796円
- (全44巻・別巻1) 揃本体572,815円



未曾有の大戦大捷に歸して、我が邦は更に大發展大飛躍を試むべき運命に到達せり。生を此の時代に享け、此際に活動する吾人は實に至幸のものといはざるべからず。然れども國家最大の危險は亦實に此際に在り。人心驕慢に流れて勤勉努力を缺き、政治は腐敗し、經濟界は紊亂し、教育事業の如き亦た同じく腐敗萎微に傾くことなきにあらず。我が邦現に然りと云ふにあらざるも、教育實際界の大勢殆ど氣味になりたる觀あるは蔽ふべからざる事實なり。これ恐らくは眞面目なる研究の衰へたる兆候にあらざるか。本會こゝに觀る所あり、着實正確にして眞に系統ある研究の結果を發表する實際雑誌を發行して、大に教育者及び當局者を警醒し、指導し、且つ共に廣く研究を試みんとするものなり。

教育雑誌は其種類既に多く、以て其要求に應ずるに足るが如しと雖も、現に存する實際雑誌を觀るに、或は地方教育者の實驗を羅列するに止り、或は研究者の範圍狭き等、何れも不満足なるを免れず。本會の期する所は、深遠なる學理に根據を置き、着實なる實驗に基きたる研究の結果を發表し、全國十萬の教育者が各自實驗せる所、考案せる所を精選の上紹介し、しかも單に紹介するに止めず、批評を加へ、成るべく主義一貫統一あるものたらしめんとす。更に本誌の特色とすべき點は、教育學心理學倫理學等の通俗講話にありとす。これ嶄新なる學說を極平易に説明するは、一般教育者を益する大なるものあるべしと信じたればなり。

本誌茲に生れたりと雖も、尙ほ整はざる所あり、所期に適はずとの評あるは免がれざる所なるべきも、號を重ねる毎に必ず多少の改良を加へて、漸次に精良のものとなさんとす。吾人は茲に廣く教育者諸君の熱心なる贊助を祈るものなり。

(一) 小 學 校 第一號 (一)

一九〇〇年前後の日本の教育界には、周知のとおり数多くの教育雑誌が登場した。雑誌『小学校』は、そのなかではやや遅れて一九〇六年(明治39)の創刊になるが、森山章之丞を社主とする同文館から発行され、『教育実驗界』(一八九八年創刊)、『教育學術界』(一八九九年創刊)などの大雑誌を凌駕するベストセラーになった。

一九〇六年といえは日露戦争直後、義務教育の二年延長を目前にひかえていた年である。国定教科書の現場使用から三年目であった。このような時期に、同誌が小学校教師に熱烈に迎えられたのはなぜか? それだけでも同誌の書誌的研究は興味あるテーマになる。だが、興味はそれだけにとどまらない。このようなインフルエンシャルな媒体を通じて、急激に膨張しつつあった二十世紀初めの大衆教育界に、だれの、どのような情報が流れ、教師と学校に対するいかなる期待が表明され、何が訴えられていたのかを解明することは、広義の教育思想史・教育世論史研究への大きな示唆となる。

半面、『小学校』には、他誌と同じく、有名無名の教師たち自身の声が数多くのせられていく。この投書性格に注目して本誌を読みこめば、私たちは、明治の教師たちの職業生活の実態、彼らが希求した技術、彼らを悩ました抑圧などを、具体的に読み取ることができる。すなわち、日本の近代学校教師のメンタリティを知る大きな手がかりを見いだすことができよう。

寺崎昌男(復刻にあたって)



第13巻第9号(明治43年9月) 目次	
初等教育 研究雑誌	小学校 第拾参卷 第九號 目次
○主 張	▲様々のイソギンチャク ▲叙動されたる跡見花咲女史
○研究	▲座石の銘と修身科教授に及ぶ ▲児童遊戯入形 ▲夏と教育的顧慮 ▲夏期休業課題の方針 ▲夏季休業課題の實際 ▲夏季休業中の児童心得 ▲工業補習学校の施設經營に就て ▲尋常小學地理卷二挿畫の略解 ▲漢字教授上の注意 ▲訓育に就て
○談 話	▲児童の辨當に就て ▲何故に石磬を使用せざる ▲犧牲的精神の涵養 ▲賞罰の研究 ▲岩鹽の話 ▲幕府の職制に就きて
○雜 著	▲覺めたる女 ▲樺太の教育 ▲小山村の友より ▲日本一の長壽者と大男 ▲明治五十年日本史東洋史料受驗記
○附 録	▲編輯紹介 ▲明治四十二年(一九〇九年)の編輯方針 ▲明治四十二年(一九〇九年)の編輯方針 ▲明治四十二年(一九〇九年)の編輯方針
著者名索引	久住 榮一(一九〇九) 小山 末三(一九〇九) 大 橋 清(一九〇九) 水 野 半 雅(一九〇九) 高 橋 欽 堂(一九〇九) 高 橋 竹 堂(一九〇九) 砂 野 清 市(一九〇九) 宇 野 三 郎(一九〇九) 三 宅 山 太 郎(一九〇九) 後 藤 朝 太郎(一九〇九) 白 井 淺 太 郎(一九〇九) 大 槻 龜 太 郎(一九〇九) 中 谷 平 三 郎(一九〇九) 船 津 藤 作(一九〇九) 高 島 平 三 郎(一九〇九) 羽 原 又 吉(一九〇九) 妻 木 忠 太(一九〇九) 東 京 沼 田 笠 峰(一九〇九) 東 京 安 格 叔 吾(一九〇九) 東 京 井 川 恭(一九〇九) 東 京 須 藤 楠 典(一九〇九) 東 京 須 藤 楠 典(一九〇九) 合 格 者 名 録(一九〇九)

時事通信 内外教育版

全 25 巻・別巻 3

渡部宗助編集解説 [大空社 1988-97]

■『時事通信内外教育版』〈昭和 21.10-32.2〉。教育ジャーナリズムの先駆、戦後混乱期の教育界（中央・地方の動向や海外事情）を如実に伝える。学者・文部高官・地方教育家など多彩な執筆陣。

〈全 4 期配本〉 揃定価（本体 411,000 円＋税）

[1 期] 6 巻（創刊 -300 号〈昭和 21.10.9-27.2.5〉）

4-87236-036-4 本体 99,000 円

[2 期] 5 巻（301-500 号〈昭和 27.2.8-29.2.5〉）

4-87236-052-4 本体 92,000 円

[3 期] 7 巻（501-650 号〈昭和 29.2.9-30.7.26〉）

4-7568-0548-5 本体 110,000 円

[4 期] 7 巻（651-800 号〈昭和 30.7.29-32.2.1〉）

4-7568-0676-7 本体 110,000 円

残部 1 組

2026年 9月

(1) 昭和 28 年 8 月 30 日 (木) 第 274 号 時事通信 内外教育版 第 1 期郵便物認可

昭和 21 年 12 月 12 日 第 3 期郵便物認可
昭和 24 年 2 月 17 日 運輸省特許第 51 号

時事通信 内外教育版

編集印刷発行人 桂田 増三
東京都千代田区日比谷公園 2 番 時事通信社

【目次】

【読者からの返事】第四巻への回答……………1
「教師の倫理と実践」……………今村 彰一

【アンテナ】文部省新学部の設置に小冊子・既学再編法
委員増化・日経出版経済学雑誌大物通……………2

【長編】人事院勧告は教職員給与にどうひびく
ベース改訂への当面の動き……………3
勧告の内容とその反響……………4
平衡交付金と教職員の問題……………5

【地方教育の動き】……………6
【解説】講和協約と文教問題……………入江啓四郎……………7
【海外事情】アメリカの教育平衡交付金の概観……………9
【海外悲劇】アメリカン・デモクラシーの
危機と学校教育……………10
【ダイジェスト】渡部宗助「幼年期」……………11
【教育書評紹介】「地球と人間の出来まで」……………12
【資料】学校職員給与條例和町村の例……………13

今村彰一氏より「おや氏」のい
われるような、一部の教師のあることを辛直に認
めるし、これを謝罪しようなどとは思わない。こ
の態度に対する批判は、われわれ教師全体に対す
る忠告であるとする考えている。しかしこれら善
意の忠告者は、金銭のふりまわし、金銭贈与など
の問題がなぜおこるのかと考えないのであらうか
例えれば七月十三日付の読売新聞は「先生は商人
と結託してコンミッションをとっている」とい
うことは、すでに常識になつていて」と極言して批
難しているが、これだけでは問題を解決する忠告
にはならない。同じ問題につき、八月一日付の朝
日新聞社説は「今日の教師には勉強するひまも金
もないといわれる。この抗議はたしかに正しい。
教師の経済的地位については、社会と国家はもつ
とまじめに考慮を払うべきである」と述べてい
る。

これは悪徳の原因の重要な要素の一つを明らか
に指摘しているように思われる。一体これら悪徳
の教師をもふくめた、すべての日本の教師たちは
戦後どんな立場におかれてゐるのだろうか。
一例をあげれば、昨年の免許更新講習では、
多額の講習費（交通費、宿泊費、図書費等）一切教
員負担）を血の出るような生計費から捻出させた
結果、北海道では一名の教師が会場で急死、神奈
川縣では女教師が会場で流産などの悲惨事をひき
おこし、文字どおりの殺人練習が横行された。そ
して学校では定員減による労働過重を負わされた
教員が規定以上の授業を受持ち、課外指導、課
の整理、明日の授業案の作成、職員会、PTA の
役員会、懇談会等々、なお勉にのつては子備の
送迎までやらされるしつである。一方人事院は
ベースアップの改訂を勧告しても、政府はとくに
地方公務員である教職員に対しては、財源がない
から不可能であると断りもはらうの状態である。し
かし質いい教師が片腕の無い教員に同席して

教師の倫理 と実践

(1) 昭和 23 年 9 月 2 日 (木)

昭和 21 年 12 月 12 日 第 3 期郵便物認可
(毎 週 木 曜 日 発 行)
第 120 號 【続無断轉載】

時事通信 内外教育版

編集印刷発行人 桂田 増三
東京都千代田区日比谷公園 2 番
時事通信社—JIJI PRESS

【目次】

新制大学への展望……………1

【重要資料】

教育委員会の選挙について……………5
—文部通達第 109 号全文—
選挙の要領……………6
質疑應答抄……………9

本社の定期刊行物 (日刊) 政治労働版・産業物價版・貿易情報版・金融財政版・
農林水産版・運輸観光版・時事解説版・法令日報・映画芸能版・海外電報版・
海外経済版・時事速報版(1日1-3回) 電通通信(終日) Home News Service(1日3回)
World News Service(1日2回)・Commercial Service(1日3回) 【週刊】内外教育版・世
界週報・時事フォトサービス(隔週刊) 時事英語通信(月刊) 復讐時事・レポート

二十一年十月文部省は大学設置基準設定委員会
を設け準備に着手して以来、新制大学の設置は各
地に特色を競う大学が名乗りをあげ、すでに締切
られた申請二百十九校が来年度を目指して満足す
ることになったが、これらの大学は大学設置委員
会の委員四十五名のほか臨時委員百九十九名から
なる各専門別の八班の審査会の分組によつて学校
視察の方法で審査を開始、来年度三月までに三回の
総会を開き、各総会ごとに七十校ぐらいつつ文部
大臣に認可の答申を行い、順次、予算的措置と説
明合せて決定してゆく方針である。しかし大学設
置委員会が果してこれほどの多数の新制大学の審
査にあつて大学の水準を保ち、また國土計画的見
地から従来のような学校の大都市集中の弊をどの
程度に正するか、今後の審査いかにいかにつて
いるわけだ、この点、教育界の注目の的となつて
いるところである。これによつて、教育刷新委員
会は去る七月二十二、三日の第七十四回総会にお
いて「大学の國土計画的配置について」の決議を
採択し内閣に建議している。これによると、
新制大学の國土計画的配置は各地方の人口、産
業、民衆等の特殊事情を十分考究した上でこれを
決定すべきであるが、これには多くの困難性がある
から学生、生徒の大都市集中の現状を矯正する
ように考えながら各地方民衆及び各地方の社会的

新制大学への展望

六、三、三、四の頂点である最高の学府、また
學術、文化の研究機関としての機能を發揮すべき
新制大学の設置は、私立の十二校が本年度から充
足したが、他は文部省の統合方針や地元学校の事
情などの食いちがいで遅れ、出来るかぎり二十四
年度中に満足させるなどの設置基準四点をあげて
促進をはかり、七月三十一日で設立申請を締切つ
た結果、やつと出そろひ、八月二十四日の大学設
置委員会第五回総会に文部省から提出され、その
申請は全國二百十九校に達し、ようやく全國の新
制大学の全容が明らかになった。

●かなりのものが容
易にネット等で見ら
れる今日でも、この
資料は「原版すべて」
を見ることはできず、
貴重です。

推薦の言葉 (1988年)

戦後教育をグローバルに把握する史料

名古屋大学教授 鈴木英一

私が『時事通信・内外教育版』を定期購読するようになったのは、昭和三十年代に入ってからである。当時、勤評や管理規則をめぐる教育界が騒然としていた時代だが、中央・地方の動向をつかむのに欠かせない情報源であった。爾来三十数年、本誌にたいする私の考えは変わっていない。しかし、戦後改革期を研究対象とする者として、昭和二十年代の本誌に注目してこなかったのは、まことにうかつであり、閲覧や入手が困難であるこの時期の復刊はまことに喜ばしい。今日、国立教育研究所の教育史料収集作業には極めて高い評価が寄せられているが、今回の渡部宗助先生の丹念なお仕事もその一つであるといえよう。

戦後日本の教育改革を総合的に考察するためには、日本側・占領軍両者の動向に注目しなければならない。今回、復刊される内容をみて、正にその「掛け橋」としての役割を荷なうのが本誌であると確信する。昭和二十一年から昭和二十七年といえ、国をあげて教育改革という歴史的大事業に取り組んでいた時代である。民間情報教育局を中心とする占領政策の推移に詳しく、著名な教育学者・文部省高官・地方教育家など執筆陣が実に多彩であり、六・三制をはじめ教育改革の多側面を、中央・地方の詳細な動きを含め、立体的に把握できる点、第一級の史料価値がある。当時の海外事情にも詳しい点、日本の教育をグローバルに把握できる。このように、本誌はかの『タイムズ・教育版』に優るとも劣らない。

時代の生々しい教育情報の集積

神戸大学教授 平原春好

『時事通信・内外教育版』というものを知ったのは、大学の専門学部に進学した直後であった。その頃の一般新聞は、今日とは比較にならないほど教育関係情報の掲載量が少なかったため、私にとってこの存在価値は大きかった。それ以来三〇年以上の間、これは私の主な教育情報源になっている。

今回複刻刊行されたものは、私が出会ったよりもっと前の、日本が占領下に置かれていた時期のものである。冒頭に田中耕太郎文部大臣の「日本教育の再建構想」やニュージェントCIE局長の「発刊に寄す」を掲げた第一号から、標準教科書や改訂学習指導要領問題などを扱った第三〇〇号までの中には、教育に関する時論をはじめ、国会・政党・文部省・教職員組合などの動き、国内・国外の教育事情、調査資料、教育図書を紹介など、さまざまな記事が掲載されており、その時々の断面が生々しく記録されている。

このような『内外教育版』は、ニュースの配信を業務とした時事通信社の発行物であるから、取材陣の豊富さと報道の速報性に強みがあり、とくに政策立案・立法過程や世論動向などについては、公共機関の教育広報誌などでは得られないものを提供してくれ、参考になる。

これまで全号を通覧することの難しかった部分が複刻刊行されたことを喜び、多くの人がとに活用されることを期待する。

■師範学校、中学校、高等女学校、実科高等女学校、実業学校の詳細なデータ。教育・学校制度や政策史の具体的実態把握に不可欠で利用度が高い「統計・調査資料」の集成。「これら調査報告は、全国統計はもとより、『文部省年報』では求め得ない個々の学校についての詳細かつ豊富なふくんでいる点に特徴がある。（監修のことばより）」たとえばこんな詳細情報が…「名称・学校長・位置・設置開校など沿革概要、生徒定員・生徒数、学級数、入学状況、入学志願者入学者の入学前学歴、入学者の体力、入学後の学力・操行、前年度卒業者の進路・体格・学力・操行、前年度半途退学者の事由別内訳、学科目に関する調査、教員に関する諸調査、附属小学校・附属幼稚園に関する調査、等々。

「全国高等女学校・実科高等女学校ニ関スル諸調査」 昭和 2.10-15.10 4-87236-126-1 本体 92.233 円 **〈残1組〉**

◎ 學校名稱、設立者、學校長、位置、沿革ニ關スル調

道府縣別	設立時期	學校名稱	設立者	校長	位置	備考
北海道	公立	北海道廳立札幌第一中學校	北海 道 廳	山田 半太郎	札 幌 市	明治二十八年四月北海道廳立札幌第一中學校(シラカネ)設置。十月開設大正四年四月改稱。
		同 札幌第二中學校	同	加藤 藏太郎	札 幌 市	十四年五月。七月北海道廳立第二札幌中學校トシテ設置。大年三月四日開校。
		同 函館中學校	同	千衛 精一	函 館 市	二十八年三月設置。四月開校。大正四年四月改稱。
		同 小樽中學校	同	永上 正廣	小 樽 市	十四年五月。
		同 旭川中學校	同	義部 善次	旭 川 市	十六年六月。二月北海道廳立上川中學校トシテ設置。四月開校。大正四年四月改稱。
		同 釧路中學校	同	藤 佐 一	釧 路 市	大正元年八月設置。二年四月開校。
		同 室蘭中學校	同	小野 徳郎	室 蘭 市	大正五年七月設置。六年四月開校。
		同 稚川中學校	同	目下 恒	稚知郡稚川町	大正九年三月設置。四月開校。
		同 網走中學校	同	森岡 文治	網走郡網走町	大正十一年三月設置。四月開校。
		同 野付牛中學校	同	加藤 秀	常呂郡野付町	大正十一年三月設置。四月開校。
	同 名寄中學校	同	橋本 壽木	上川郡名寄町	大正十一年三月設置。四月開校。	
	同 若井澤中學校	同	岡部 貞三郎	空知郡若井澤町	大正十一年三月設置。四月開校。	
	同 俱知安中學校	同	宮野 武雄	紋別郡俱知安町	大正十一年三月設置。四月開校。	
	同 帶廣中學校	同	西木 俊雄	帶 廣 市	大正十二年三月設置。四月開校。	
	同 北標尾中學校	同	北標尾 延治	余賀郡北町	大正十三年三月設置。四月開校。	
	同 八雲中學校	同	高井 直吉	山越郡八雲町	大正十三年二月設置。四月開校。	
同 金室中學校	同	村上 善吾	余市郡金室町	大正十四年二月設置。四月開校。		
同 留邊市中學校	同	元光 善吉	留邊郡留邊町	大正十三年三月設置。四月開校。		
市立	北海道	小樽市立中學校	小 樽 市	藤井 忠三郎	小樽市	大正十三年三月設置。四月開校。
私立	北海道	弘前市立中學校	財団法人南都祁園	戸津 尚弘	弘 前 市	三十三年三月設置。五月開校。 [十七年五月青森尋常中學校トシテ設置。二十四年月青森私立第一中學校]
青森縣	私立	弘前市立中學校	青 森 縣	綿 峯 藏	弘 前 市	
岩手縣	公立	岩手縣立中學校	現在生徒數未詳			
	公立	岩手縣立中學校	九、工業學校(乙)			
	公立	岩手縣立中學校	一〇、農業學校甲)			
	公立	岩手縣立中學校				

全國公立私立實業學校

調查報告

目 目

一、實業學校現狀概觀
二、實業學校現在生徒數調查
三、實業學校本學年入學上級生數
四、實業學校本學年入學者數
五、實業學校前學年中途退學者數
六、實業學校前學年卒業生數
七、實業學校教員員資格別員數

[illegible]

国語教育

全 33 巻・別巻 1 石井庄司・倉澤栄吉 監修 [大空社 1993-95 復刻] B5 判・上製

■「申すまでもなく、わが国最初の国語教育専門誌である。大正 5 年に創刊されたこの月刊誌〔育英書院刊〕は、時局によって廃刊に追い込まれるまで、四分の一世紀にわかって、国語教育界の牽引車であった。大正・昭和期およびそれ以降の国語教育に「資益するところ少なくなかったとうぬぼれていた」(保科孝一『国語問題五十年』147 頁)本である。保科主幹の言以上に、研究者・実践家に与えた影響は、図り知れないものがある。(刊行のことばより)」

●内容・特色 ①国語・国字問題の歴史資料＝主幹・保科孝一が毎号「巻頭言」執筆。 ②多彩な執筆陣＝上田万年、乙竹岩造、沢柳政太郎、玉井幸助、芦田恵之助、五味義武、馬淵佑佑、秋田喜三郎など、国語学者・教育学者・全国の師範学校や大学教員・全国の実践家。 ③教材論・授業論＝「論説」「教材の研究」「教材の実践」「国語問題」と理論と実践にわたる編集。 ④中等教育における国語教育のあり方や実践、教材研究の提案の資料。ドイツを中心とした外国文献を多く紹介。 ⑤解説執筆者＝朝倉秀雄、石井庄司、井上敏夫、甲斐雄一郎、倉澤栄吉、桑原隆、近藤国一、首藤久義、塚田泰彦、野地潤家。

目次	
白馬の節外一(國語青年中行事)	口 箱
第三皇子高松宮殿下	主 張
本誌發刊十週年に直面して	論 説
テスト加味の程度	文章の総合的理解
國語科入學試験及びその問題について	中等學校入學試験問題所感
入學試験と國語科問題の傾向	國語科入學試験問題改選の根本理
高等女學校の國語科入學試験問題について	選抜的效果より見たる選抜試験としての国語試験
入學試験と國語科	中等學校入學試験について
女子師範學校高等女學校の國語科入試に就いて	中等學校入學試験について
堀江 興一(一)	選抜と選抜
青木 辰治(二)	中等學校國語科入學試験問題に就いての一考察と改善私見(一)
飯田 恒作(三)	中等學校から見た入學問題と二つの重點(二)
徳本 正俊(四)	中等學校の讀方科入學試験問題に對する一私見(三)
今泉 浦治郎(五)	中等學校國語科入學試験問題の歸結點(三)
八波 則吉(六)	所感數則(三)
保科 孝一(七)	雜 錄
佐野 恵作(八)	試験に對する科學的研究の必要
佐野 恵作(九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(二九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(三九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(四九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(五九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(六九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(七九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(八九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九一)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九二)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九三)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九四)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九五)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九六)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九七)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九八)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(九九)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)
佐野 恵作(一〇〇)	國語科入學試験問題實際例(大正十三年度)

(全 4 回配本)

[1 回] 9 巻 (1-9 巻 : 1 巻 1 号 - 3 巻 12 号 (大正 5. 1-7. 12))

4-87236-849-5

[2 回] 9 巻 (10-18 巻 : 4 巻 1 号 - 6 巻 12 号 (大正 8. 1-10. 12))

4-87236-921-1

[3 回] 9 巻 (19-27 巻 : 7 巻 1 号 - 9 巻 12 号 (大正 11. 1-13. 12))

4-7568-0001-7

[4 回] 6 巻 (28-33 巻 : 10 巻 1 号 - 11 巻 12 号 (大正 14. 1-15. 12))・別巻 (解説・総目次・著者名索引)

4-7568-0113-7

(全 33 巻・別巻 1) 揃本体 572,815 円

全巻揃残部 1 組

2026 年 9 月

第 10 巻 3 号 (大正 14 年 3 月) より

国語問題解決の好時期

保 科 孝 一

主 張

(一)

国語問題は明治維新以来の歴史で、幾多の曲折起伏を経て今日に至つたのである。この問題には國字に關するもの、假名遣に關するもの、文體に關するもの、標準語に關するもの、文法に關するもの、あるいは句讀法や送假名に關するもの等種々の重要な事項が含まれてゐるが、過去五十餘年間朝野の識者間においてもつぱら論議されて來たのは、文字・假名遣および文體に關するものである。文字の改良については、ローマ字專用論や假名遣專用論はすでに多く唱へられてゐる。日清戦役により國民がようやくその世界的地位を自覺し、支那より文字を借用して居る現狀に對してはなほ不愉快な感情を抱き、むしろ國民としての固有の文字を有するの必要を認め、いわゆる新國字論なるものがあらわれて來た。しかるに一方においては、漢字を全廢することは一朝一夕にして目的を達し得るものでない、ゆゑにむしろその字數を節減してこれに對する負擔を軽くするがよいという意見もあらわれて居る。もちろんこの間に漢字の全廢はもとより、その節減といふこともなし得るものでもなく、なすべきものでないという現狀維持論の存在したことは言を待たない。

假名遣については、とうく鎌倉時代からこれを整理統一するの必要が認められ、徳川時代に至てからはいづかの意見があらわれたが、とにかく國學者の間では、契沖の唱へた歴史的假名遣を以て假名遣の標準とすること一致したのである。明治になつてからは、

同志同行

全 35 巻・別巻 1 (解説・総目次・著者名索引)

石井庄司・野地潤家監修 [大空社 1989 復刻] (全 2 回配本) 揃本体 349,514 円

■芦田恵之助 (1873-1951) 主宰 (同志同行社、昭和 5. 1-30. 1)。国語教育実践の最高峰・芦田と全国各地域で実践にうちこむ同志との交流の場「全生活を教育と観ずる者を同志といひ、教壇を熱愛するものを同行といふ」。

全巻揃残部 1 組

2026 年 9 月

2026年 9月

監修：滑川道夫・野地潤家 / 編集解説：川口幸宏・太郎良信・中島和美
 [教育・国語教育複刻刊行委員会刊 / 大空社発売 1993-95 復刻] B5 判・上製

■昭和戦前期を代表する〈教育総合誌〉 昭和 6 年創刊号から昭和 15 年終刊号まで全 108 冊 2 万 6 千頁を復刻。

●内容・特色 ①国語教育に限らず教育全般・社会問題までを含む幅広い誌面構成。 ②誌面に現場教師たちの生々しい息づかいが溢れる。 ③「生活綴方教育運動」の実証的・理論的研究資料の宝庫。

●推薦します(発刊時) 教育運動史研究会会長・井野川潔：全 108 冊復刻の壮举を喜ぶ／東京学芸大学教授・海老原治善：国語教育の枠をこえた、教育への良心／全日本国語教育学会常任理事・大村はま：豊かな内容に改めて覚える興奮／中央大学教授・金原左門：あらためて学ぶ、多彩な教育の創造／日本国語教育学会会長・倉澤栄吉：復刻版を推す／日本作文の会・田宮輝夫：『幻の源流、から学ぶ／お茶の水女子大学名誉教授・波多野完治：『教・国』の復刻版刊行を喜ぶ。

[1 回] 19 巻(昭和 6. 4-10. 12) 4-87236-063-X 本体 290,000 円

[2 回] 17 巻(昭和 11. 1-15. 3)・別巻(解説・総目次・著者名索引) 4-87236-064-8 本体 290,000 円

(全 36 巻・別巻 1) 揃本体 580,000 円

本誌は、1931(昭和 6)年 4 月に、元東京高等師範学校訓導・千葉春雄を主宰として創刊された。戦時体制下の雑誌統合政策のあおりを受け、1940 年 4 月より誌名を『教室』と改題することにより、当初の本誌の性格が変質し、その歴史的役割を閉じた。

本誌は、たくましくリベラルな、在野精神の持ち主であった主宰者・千葉春雄の影響を強く反映している。従来の国語教育の型を突き破る斬新な編集方針のもとに、多種多彩な執筆陣による論文、実践記録、評論などが掲載されている。執筆陣に、当時、国語教育、教育一般をはじめとして思想、哲学、歴史学、言語学などの広範な領域における著名人、知識人を迎えたばかりか、民間的な国語教育運動に密着して、とくに地方在住の無名の青年教育者の発掘と育成に力を注ぎ、その豊かな教育実践を誌面に紹介している。

本誌を一瞥すれば、当時の教育、思想、科学、文化の水準を知ることが出来るばかりか、その水準を突き破ろうとする歴史創造への若々しいエネルギーと実績とを感じとることが出来る。とりわけ、昭和初期の生活綴方運動の展開の上で極めて重要な役割を担ったことは、あまりにも有名である。

「実際の光つたところを、どんどん見せてほしい。空理空論は不要だ。現代の国語教育に必須な、しかし再校の実際到達点を示してほしい。一苦しみぬいて、本当に胸にこたへた研究を送ってほしい。万人を光被させ救済するものがほしい。事実在即して、うんときたへるものを、どしどし送って下さい。(第 2 巻 5 号・昭和 7 年 5 月号「編集後記(千葉)」より)」

(刊行にあたって・監修のことばより抜粋)

『教育・国語教育』刊行・誌名の変遷(厚生閣発行)

教育・国語教育(千葉春雄主宰)

昭和 6 年 4 月創刊

教育・国語教育(前本一男編集)

昭和 12 年 8 月

教育国語教育(前本一男編集)

昭和 13 年 1 月

教育国語教育(百田宗治編集に加入)

昭和 13 年 11 月

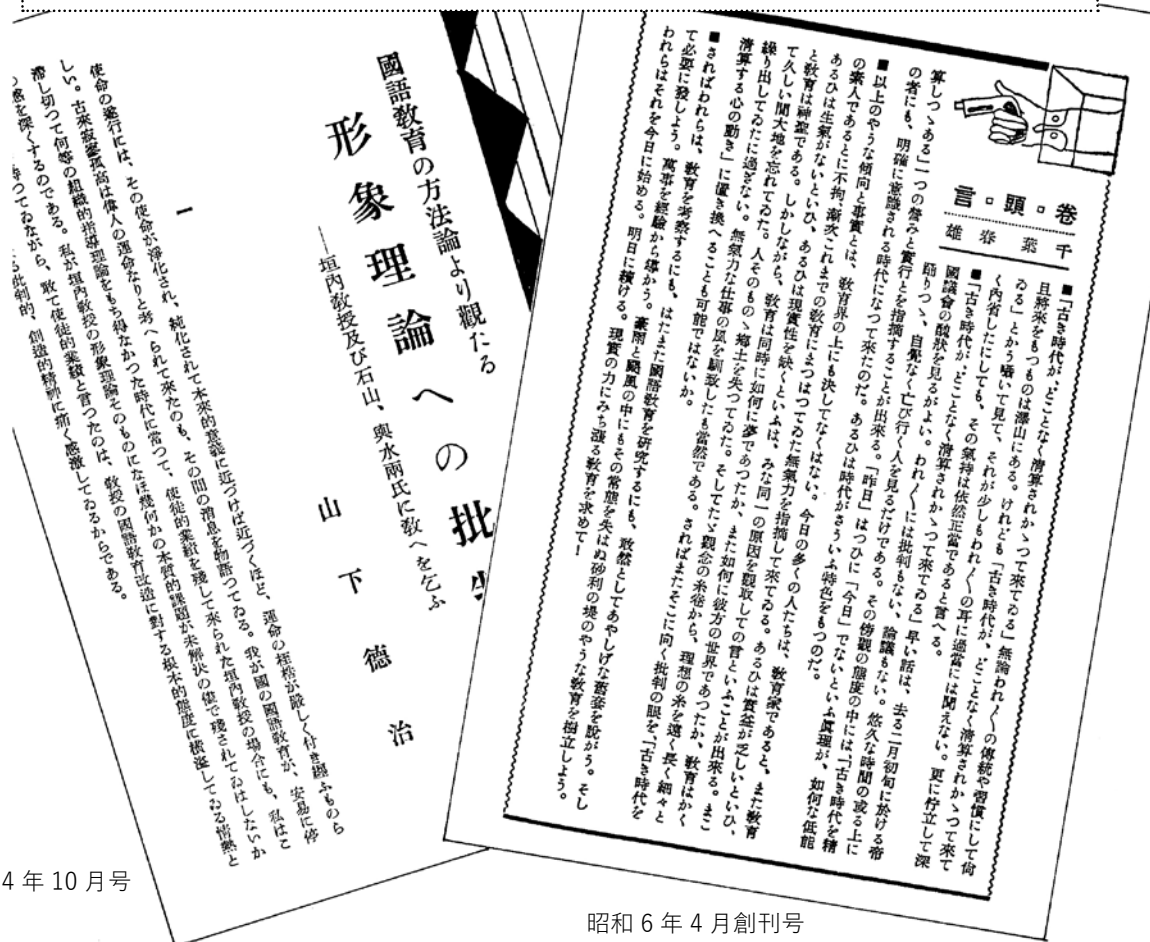
教育・国語(百田宗治編集)

昭和 14 年 4 月

(終刊) 昭和 15 年 3 月

昭和 14 年 10 月号

昭和 6 年 4 月創刊号



南洋群島 国語読本 補遺 全1巻

宮脇弘幸・監修 / 前田均・解説 [大空社 2012.2]

978-4-283-00794-9

A5判・上製・440頁 本体14,000円

『公学校国語読本教授書』（第四次〈昭和12年〉・南洋庁、編纂者：梅津隼人）

残数冊

2026年9月

『南洋群島 国語読本』全8巻刊行時には未発見・未収録だった「〈第四次〉教授書」の復刻。

- ① 教授者用の教授書で、単に日本語・国語の教育法のみならず、当時の南洋での教育実態と国策・社会的思想的背景をも明らかに物語る、貴重な歴史的資料。
- ② 芦田恵之助（第二次）と中島敦（第五次）以外の編纂者について書かれた初めての論考を解説とする。

〔収録内容〕

補遺刊行にあたって（梅津彰人＝編纂者子息）

〈解説〉南洋庁第四次教科書編纂者 梅津隼人のこと（前田均）

〈参考資料〉南洋群島教育会発行『南洋教育』誌（第5巻第2号、昭和13年7月） * 第四次教科書に対する現場教員からの意見を復刻収録している。

日本教育史 国語教育史 植民地教育史

本科用巻四

一 キエウジョウ

日本國體の尊嚴、國民の美風を知らしめるための教材である。

帝都の中央に嚴として宮城あり、其の宮城の奥深き所に、現人神なる聖上陛下が住はせられるので、我等億兆臣民の心がいつも安泰で、喜悅と希望とに満ちて其の日其日を送ることが出来るのである。

現人神の住はせられる所として宮城は聖なる場所である。其の意味を兒童に知らしめなければならぬ國民が何等功利的動機なく、たゞ「清明な心を以て宮城を拜することは、日本國民の最崇高な美風である。宮城の莊嚴を知ることが、やがて國體の強く美しいことを知ることの基である。」

「オスマイニナル」が一つの敬語的表現で「イラツシヤル」も同様である。兩方を使ふと、最上の敬語となるのである。

「トウキョウノマンナカ」これは、數學的測量的の真中ではない。大凡中央の意味である。

「フカイ オホリヲメグラシテアリマス」「オホリ」は敬語。「メグラシ」は「メグル」の他動詞の形となつてゐる。

「オホリノソトカラハイスマス」「ハイスル」は、鄭重語で「ゲンカンヲハイスル」「ミグルマヲハイスル」等、凡て皇室に關するものに對しては「ハイスル」と申すのである。

「ゴテンノミドリノヤネガミエマス」さびて緑色に見えるのである。

「セイモンノトコロ」正門のある所。

本科用巻四

101

ここであき机からこまでになつた経過を考へて見させるがよい。事業が發展するにはそれ相當の苦心と熱心と順序が必要であることをわからせるのである。

「コノ文庫ハ、ミンナノ力デ出来タノダカラ、トウトイモノダ」有益な公共的の事業は人々が協力しなければ成功しない。そうして成功したあかつきは誠に愉快なものであり、尊いものであることを知らせるがよい。

「卒業記念トシテ、學校ニ殘シテオキタイト思イマス」ここでは母校の觀念と、愛校心を培つておくべきである。

第二十 神 風

我が國開闢以來の國難と言はれてゐる元寇中の弘安の役を叙した歴史的資料である。この國難に於てかしくも龜山上皇は尊い御身を以て國難に代らうと伊勢の皇大神宮に祈らせられ、執權北條時宗は勇武果斷でよく事を決して誤らず、國民は武士から百姓に至る迄身をなげうつて之を防ぎ、上下一致困苦に堪へたために、この大勝を得て國威を輝かすことが出来たのである。我が國民性の優秀なる特質は、この非常時に於て最もよく發揮せられたのである。この歴史の物語によつて兒童をして國民性の優秀なる所以を知らしめることが此の課の目的である。

龜山上皇の皇大神宮にお祈りになつたことについては、特に慎重に注意して教授し、我が國風としての神への祈りを兒童に誤解させないやう氣を付けなければならぬ。

「後には世界の國々をせめとつてしまおうとした。」アジャに於ける諸國を併せ、遠くヨーロッパの諸

南洋群島 国語読本 全8巻

宮脇弘幸監修・解説 [大空社 2006.10]

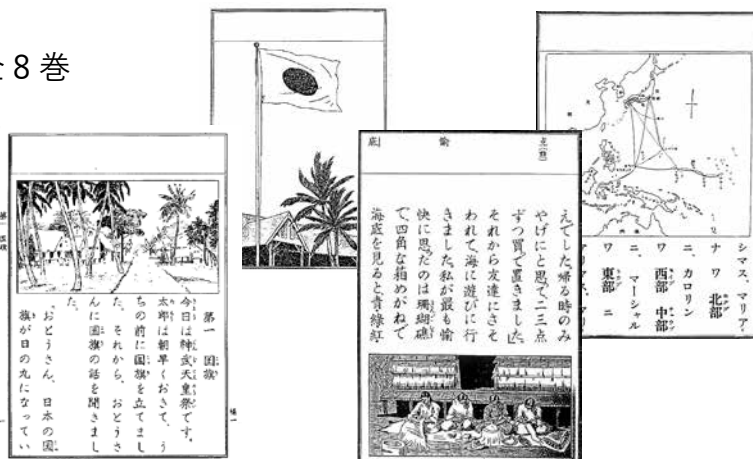
A5判・上製 4-283-00463-4

揃本体 99,000円

全巻揃残部1組

2026年9月

現地人児童生徒用に編纂・使用された教科書
 〈第一次～四次、大正6～昭和12〉を復刻。
 芦田恵之助・岩崎俊春・梅津隼人らが編纂。



* 雑誌『養護 / 学童養護』 全9巻・別巻1 復刻版編集 瀧澤利行・七木田文彦〈大空社 2014-15 刊〉

A5 判・上製・クロス装・総約 5700 頁 978-4-283-01021-5 揃定価(本体 208,600 円+税) **残部数組**

学校の中で学校看護婦はどう生きたか

時代と歴史の証言・活動・調査記録・法令等を豊富に収載

学校における保健・衛生・施設・施策・制度、子どもの健康・身体・心、看護・医療・福祉と教育〈養護教諭〉いま、喫緊の課題に大きな示唆が与えられる。学校衛生の復興期とされる大正中期から昭和初頭、さらに戦中・戦後に接続する養護教諭制度・学校保健制度の成立と展開を知る唯一の貴重な資料群(復刻原誌:昭和 5.11 ~ 12.12、帝国学校衛生会) 別巻『雑誌「養護」の時代と世界:学校の中で学校看護婦はどう生きたか』(本体 8,600 円〈分売可〉)



* 近代日本 女性文献史料総覧 1868 ~ 1917 全13巻・別巻2 (3回配本)

女性史研究会編〈大空社 1998-2000 刊〉 B5 判・上製・クロス装 揃定価(本体 240,000 円+税) **残部数組**

女性論を女性 / 男性の視点に分けて分類したユニークな編集復刻資料(序文・目次・記事本文等)。付:関係図書総目録・解題・索引。

■第1回(1-4巻・別巻)女性による女性論:図書/雑誌新聞編 4-7568-0840-9 揃本体 80,000 円

■第2回(5-9巻)男性による女性論:図書編 1872-1917 4-7568-0867-0 揃本体 80,000 円

■第3回(10-13巻・別巻)男性による女性論:雑誌新聞編 1874-1916 4-7568-0868-9 揃本体 80,000 円

* 現代日本看護名著集成 全14巻・別巻1 復刻版監修 坪井良子〈大空社 1993-94 刊〉

■戦後から 1965・昭和 40 年までの基本文献集成。 A5 判・上製・クロス装 揃定価(本体 265,000 円+税) **残部数組**

* 近代日本看護名著集成 全18巻・別巻1 復刻版監修 坪井良子〈大空社 1988-89 刊〉

■明治から戦前の貴重文献集成。 A5 判・上製・クロス装 揃定価(本体 220,000 円+税) **残部1組**

* は専売商品です。

ご注文・お問合せは直接右へ
ご連絡をお願いします。



パンセ
学術図書販売(株)

フリーダイヤル 0120-518-521
E-Mail: contact@tosho-pensee.com
https://www.tosho-pensee.com

時間貧困からの脱却にむけたタイムユースリテラシー教育 E S C A P 地域の人間開発新戦略

●残数冊

中山節子 著 978-4-283-00650-8〈大空社 2014 年 2 月刊〉 A4 判・並製・236 頁 本体 5,619 円

ESCAP 地域の生活行動分析を社会・労働・経済から広く文化・ジェンダー・教育研究等に有効な方法として提起する、生活時間研究の新しい成果。自己の時間使用のあり方を再考し新しい生活を創造する契機を生みだすための実践的な書。

鳩が飛び立つ日「石井筆子」読本 男女共同参画と特別支援教育・福祉の母

津曲裕次 著 978-4-283-01325-4〈大空社 2016 年 3 月刊〉 B5 判・並製・150 頁 本体 2,600 円

中学校道徳科教材や高校日本史教科書に取り上げられた先駆者の、近年まで広く知られなかった生涯が、第一人者により、時代と重要人物のつながりの中に鮮やかに浮かび上がる。

日本における女子体育教師史研究

残数部(2026.9)

掛水通子 著 978-4-908926-32-7〈2018 年 2 月刊〉 A4 判・500 頁 本体 16,667 円

同じ女子教師であっても、女子体育教師のみが女子教師からも体育教師からも差異化されてきた理由は何か? 男女共修・男女共同参画時代における女子体育教師の役割をどのように位置づけるか… 近現代日本の女子体育教師史の全体像を膨大なデータをもとに詳細に跡づけ、今日的課題に迫る大著。統計・調査記録・年表等 図表約 250 点収載

精神病院における〈慰安〉の展開 昭和初期の実践を紡いで

山田敏恵(椋山女学園大学人間関係学部助教) 著 978-4-86688-248-2 〈2026年5月刊〉 A5判 344頁 本体 4,200円

従来の歴史的研究では、精神病院での病者に対する処遇の過酷さに焦点が集中し「負のイメージ」を持たれがちであった。しかし、処遇に携わる者と病者の間には、〈慰安〉という行為(構外運動、運動会、野球大会、登山、遊戯・演芸、音楽、作業など)を通して「病者が笑い、喜び、また快復する姿を見守る、“正のイメージ”を想起させる病院従業員の記述が残っている」(本書より)。記録を克明に読み解き、病者とその処遇に携わる者との〈相互〉関係性を明らかにする、新視点による精神病患者処遇史・社会福祉史・社会事業史研究。——そこには「人」の尊厳を重んじる今日の福祉・支援の源流があった。

民生委員制度の原点 岡山県済世顧問制度の通史的論究

現代地域福祉の視座を求めて 山本浩史 著 978-4-86688-244-4 〈2025年8月刊〉 A5判 286頁 本体 4,000円

「岡山県済世顧問制度は、1917・大正6年に創設され、翌年に創設された大阪府方面委員制度と並び現在の民生委員制度の源流の一つとされている。現在でも民生委員制度の原点として認知されている済世顧問制度であるが、その全体像が必ずしも明らかにはされておらず、先行研究の数もそれほど多くはない。本研究では済世顧問制度の全体像を明らかにすることを第一義的な目的とし、また済世顧問の思想や人物像、そして、その実践を検証し、どのような過程を経て現在の民生委員制度にたどり着いたのかを見て行く。」「(はじめに)要約」一次資料から抽出構成した多数の図表を収載し、初めて制度変遷の実情を克明に跡づける。

反骨の新聞人 長谷川善治 昭和初年『萬朝報』での言説と行動

長谷川匡俊 著 978-4-86688-243-7 〈2025年8月刊〉 A5判 198頁 本体 2,200円

戦後80年・昭和100年のいま、この知られざる「新聞人・ジャーナリスト」の“火を噴く”言説に耳を傾けよ！ 100年前の日本・世界は、まさに現代の引き写しだ！ 〈善治(ぜんじ)初めてなる人物伝〉明治創刊の名だたる『萬朝報』(よろずちょうほう)の再興に尽くし社会問題摘発に果敢に挑んだ熱血漢の言説と行動の真意を読み込み冷静な歴史家の目で時代の中に位置づける。同時に、弟・長谷川良信—社会事業家・教育者・浄土宗大僧正一の『萬朝報』主筆としての活躍に初めて光を当てる。著者(善治の甥、良信は父)でこそ書けた記念的論考。

高度経済成長と社会教育 辻 浩 編 978-4-86688-238-3 〈2024年1月刊〉 A5判・244頁 本体 2,700円

戦間期・占領期に次ぐ近代日本の大きな転換期「高度経済成長期」(およそ1955～1975年)。大量消費社会で発生した諸問題、その中で諸地域で展開された社会教育の実践・理論・政策を追い、「権利としての社会教育」が追求された意味を再確認、これからの日本社会の課題解決のために新しい理論的・実践的提起を目指す。11人の研究者による共同研究。●1章 国民の学習権保障と社会教育 / 2章 公民館報に見る住民がとらえた地域課題 / 3章 教育福祉から見る青年期教育と家庭教育 / 4章 生活構造の変容と学習・文化活動 / 補章 「経済成長と社会教育」の比較研究試論 / 付 高度経済成長期 社会教育関係年表

日本工業博物館史の研究 馬淵浩一 著 978-4-86688-236-9 〈2023年10月刊〉 A5判 265頁 本体 3,500円

明治以降、幾度となく提案されてきた日本の工業博物館設立計画、しかしいまだ実現されないのはなぜなのか？ 近代日本の博物館の歴史に刻まれる“工業博物館”構想に関わった官民・学術・教育の人々の営為を、膨大な史料文献・データを的確に整理し、鋭く歴史の核心に迫る。永年、博物館業務に従事してきた著者だからこそこの視点で書かれたユニークな業績。各種変遷・概要・分類・数量データから組織・人物略歴・社会背景を明解に提示する有益・豊富な図表54点収載。読みやすい・明解な文章。

私の記録、家族の記憶 ケアリーヴァーと社会的養護のこれから

阿久津美紀 著 978-4-908926-20-4 〈2021年8月刊〉 A5判・238頁・上製 本体 2,700円

2022年度・日本社会福祉学会
学会賞・奨励賞(単著部門)受賞

少年行刑の歴史からみる知的障害者福祉の萌芽

末松恵 著 978-4-86688-234-5 〈2022年3月刊〉 A5判・370頁・上製 本体 4,300円

京都「特別学級」成立史研究 史料と論究

玉村公二彦 著 978-4-908926-53-2 〈2021年2月刊〉 B5判・640頁・上製 本体 17,091円

「劣等児」「特別学級」の思想と実践

* 2021年度日本特別ニーズ教育学会文献賞受賞

阪本美江 著 978-4-908926-52-5 〈2021年5月刊〉 A5判・280頁・上製 本体 4,000円

近代社会教育における権田保之助研究 娯楽論を中心として

坂内夏子 著 978-4-908926-63-1 〈2019年8月刊〉 A5判・206頁 本体 3,000円

残部数組

戦前日本社会事業調査資料集成 別巻 (調査資料文献／概要) 残部数組

社会福祉調査研究会 編 978-4-908926-64-8 〈2019年12月〉 A5判・1225頁・上製 本体 34,000円 [発売：大空社出版]

戦前期(明治後半～1945年8月)の社会事業(社会福祉)調査資料文献約1,300点の解題(項目は①資料の概要、②資料の特徴、③調査の概要、④調査の内容、⑤集計の特徴、⑥資料の所蔵、⑦備考)。社会事業、福祉・慈善事業から経済・社会・思想・民衆・生活・医療・教育・地方・労働・貧困・災害等々、近代日本社会の実状を伝える調査への道しるべ。